

2014



千葉支部だより

平成 26 年 12 月発行

日本山岳会千葉支部

発行者 諏訪 吉春
編集者 吉野 聡
事務局 谷内剛

(第 29 号)

第 2 回 海 外 遠 征

台湾最高峰・玉山 (3952 メートル) の山頂に全員が立つ



搭搭加の玉山登山口にて

見事なまでの満月とオリオン座に見守られながら 10 月 8 日午前 3 時に登山基地の排雲山荘を歩き始めた千葉支部 2014 玉山遠征隊の 12 人は 5 時 40 分、全員が台湾の最高峰・玉山 (3952 メートル) の山頂に立った。東の空に光の帯が広がり始めると、断崖のような尾根や傾斜地、さらに目の下遠く、昨年に登った雪山 (3886 メートル) が小さく黒ずんで見え、やがて色彩が加わり斜面のニイタカトウヒ、ニイタカトドマツの針葉樹林も深い緑に染まりだした。われわれ一人ひとり、むさぼるようにこの山頂のぐらりと広がる展望に目を見はった。風も弱く、良く晴れて、まったく静かで平和な山頂だった。

(三木雄三)

＝関連記事 2 面、16 面＝

満月の夜に「ヘッドランプの灯りが伸びる」

10月という季節のためだろうか、標高 3402 メートルの森林限界に建つ玉山登山のベース、排雲山荘には、われわれ以外にもツアー登山に参加したという日本人や多くの登山者が宿泊していた。

未明になると、それらの人々がグループ毎に登っていく。日本で眺めるよりやや右に傾いたオリオン座がプレアデス(スバル)の娘たちを追っている。そんな静かな暗闇の中、ヘッドランプの灯りがちかちか点滅しながら上へ、上へと伸びていく。見上げると満月だ。



玉山山頂

玉山はユーラシアプレートとフィリピンプレートがぶつかり合って隆起してできた台湾で最も古い地層で、砂岩、石灰岩が沈積した上に造山活動の影響を受けた粘板岩でできている。だから岩がもろく、落石地帯のトラバースは「岩を落とすなよー」と慎重になる。足元に注意しながら、一歩、また一歩と前進を続け、風を感じるころ、

山頂を踏んだ。疲れた顔が明るくなり、やがてみんな笑顔になった。

山頂は満員御礼。記念写真もそこそこに下山を開始する。登る時より慎重に…。



千葉支部のジャンパーを着る林哲全さん

明日は帰国という 11 日夜、台北市内のレストランで食事会を開いた。遠征隊の副秘書長、高橋琢子さんの司会で進行。昨年の雪山遠征に引き続き今回もお世話になった台湾山岳協会の林哲全さんに総隊長の吉永英明さんが千葉支部のジャンパーを記念に贈った。隊長の岩尾富士夫さんも「メンバー12人全員が山頂に立ち、無事下山できた。みんなで喜びを分かち合おう」と挨拶。副隊長の山口文嗣さんが乾杯した。

玉山遠征隊メンバー

総隊長：吉永英明、隊長：岩尾富士夫、副隊長：山口文嗣、秘書長：三木雄三、副秘書長：高橋琢子、会計：小澤けい子、隊員：諏訪吉春、渡邊信一、吉野聡、安間繁樹、山崎完治、柳川しげよ。(敬称略)

刈込湖・切込湖～涸沼～光徳牧場へハイキング

晴香園の子どもたちと

渡邊信一

まるごと日光・東武フリーチケット（東武電車、バス込み 4520 円）を購入してスカイツリーライン駅から東武電車に乗り込んだ。晴香園の子どもたちは北千住駅から乗り込んだ。

残りは春日部駅で全員集合となった。晴香園の子どもたちは最初からハイキング気分興奮していた。

東武日光駅には 8 時半に着いて、東武バスで奥日光に向かい 10 時に湯元温泉に着いた。

ここでトイレを済ましてハイキングがスタートした。最初の胸を突くような急登を子どもたちは歓声をあげながら登っていった。JAC 千葉支部のメンバーは其れに引きずられての山旅だった。小峠で小休憩を入れた。

小峠からは木の梯子段を何度も登り降りて行くと緑の山に囲まれた刈込湖に着いた。湖で子どもたちは石を湖に投げる水切り遊びを楽しんだ。刈込湖と切込湖は紅葉には早かった。山の湖は東山魁夷の絵にある北欧の雰囲気を漂わせていた。子どもたちのヤッホーの声が湖に木霊していた。



涸沼のカラマツやズミノ木

涸沼までは登りが続いて急に展望が開けたらそこが涸沼だった。カラマツやズミノの木に交じって秋アザミが咲いていた。ここで遅い昼食を楽しんだ。ここでも子どもたちのヤッホーの声に山からの木霊が響いた。

ここから山王見晴らしまでは急な登りで一気に山王の林道まで頑張った。ここでも元気なのはやっぱり晴香園の子どもたちだった。

子どもたちの後を歩く JAC 千葉支部のメンバーの心は「牛に引かれて善光寺まいり」の心境であった。

あとは光徳牧場までミズナラの林の下をゆったりと歩いた、子どもたちには光徳牧場でのソフトクリームが最後のご褒美となり今日のハイキングを締めくくった。

期 日：2014 年 9 月 20 日（土）

参加者：晴香園 生徒 7 人、職員 2 人

山崎完治(L)、田代貴征(SL)、小澤けい子、柳下忠義、鈴木美代、
渡邊信一・すみ子（敬称略）

コース：東武日光駅→湯元温泉 10:20→小峠 →刈込湖 →切込湖

→涸沼 12:30(昼食) →山王見晴らし→光徳牧場バス停 14:51→ 東武日光駅

「山の日」記念イベント

房総の名山 富山の自然を学ぶ

三木雄三



国民の祝日「山の日」制定を記念した「房総ネイチャーハイキング」

が11月8日、南房総の富山(とみさん・349メートル)で行われ、一般県民の参加者ら計24人が参加した。双耳峰が美しい富山は江戸時代に滝沢馬琴が書いた長編小説『南総里見八犬伝』ゆかりの山。今回は6月のシンポジウムに続く千葉支部主催の山の日記念イベント第2弾。自然観察の講師として県立中央博物館主任上席研究員の尾崎煙雄さんが「ヤツデはちょうど花の季節。たくさんの花を見ながら楽しみましょう」とあいさつ。山道で花を見つけては分かりやすく解説した。

心配した台風も去り、まずまずの天気。午前9時40分に内房線岩井駅に集まった参加者は、駅から歩いて緑濃い照葉樹林に覆われた富山へ向かう。約30分で登山口の福満寺。

シイの巨木に囲まれた急な登山道に息が切れる。花の季節を迎えたヤツデ(写真：左上)に「このボールのように丸く白いのが花です」と尾崎さん。さらに登るにつれ「清澄菊」の別名を持つアキバギクや珍しいキッコウハグマ、猫の尻尾のようなサラシナショウマ(写真：右)などが次々に。参加者たちは熱心にメモをとる手を動かしていた。やがて東側に展望が開けてくると仁王門跡で、石段を上がると観音堂。その高みが富山南峰だが、展望は無い。正月の床飾りとして縁起物のヤブコウジ(十両)が赤い実を光らせていた。カラタチバナ(百両)も見た。観音堂



をあとに富山北峰を目指す。東京湾を眺められるようになると、ひと登りで北峰に到着した。

ちょうど正午。小板橋さんが「近所の山で採ってきた」というドングリをみんなで試食。クリのようでなかなか美味しい。「縄文人はグルメだなあ」と盛り上がった。

パラリときた雨もすぐに上がり、空が明るくなった。北峰からは細い急な山道を下る。杉林や竹林を抜けると車道に出て、やがて『八犬伝』で伏姫と愛犬の八房が住んだという「伏姫ノ籠窟」に着いた。

駅に戻る途中、「岩井のソテツ」を見学した。樹高8メートルで5本の主幹が直立、威容を誇る。県指定天然記念物で源頼朝が称賛したとの伝説もある。

四街道市から参加した西尾佳子さんは「11月でも色々な花が咲いていて、とても勉強になった。これからも機会があれば参加したい」と話していた。



会員・会友の参加者

岩尾富士夫、小澤けい子、小板橋志朗、香高真奈美、坂上光恵、佐藤啓之、諏訪吉春、高橋正彦、舩木元、三木雄三、柳川しげよ、山口文嗣、湯下正子、吉野聡 (敬称略)

神 津 牧 場 と 荒 船 山

三木雄三

「…その上信国境の山上の牧場というのを、はじめて私の訪れたのは、まったくの偶然のことからだった。ひとりで荒船山にのぼるために、私は荒船の上州側にある三ツ瀬という山村の小さな旅宿を朝早くに出発した…」。登山家で随筆家の大島亮吉は『山 紀行と随想』のなかで大正7年の神津牧場を描いている。

私たちが神津牧場を訪れたのは11月15日。午前7時50分に貸し切りバスで千葉を出発、途中、車窓から見える赤城山や榛名山、妙義山などの景色を楽しみ、正午過ぎに牧場へ到着した。震えるほどではないが寒い。売店があった。室内の気温は16度。温かいうどん、カレー、ホットミルクがなかなかの人気。からだを温め、午後1時20分から歩き出す。目指すは物見岩と大島も泊まった今夜の宿「初谷温泉」。乾いたミズナラの落ち葉がカサカサ鳴って気持ちの良い登りが続く。振り返ると牧場が小さくなって、やがてひと登りで



物見岩に着いた。明日登る荒船山がすぐそこだ。目を移すと特徴のある西上州の奇峰が並ぶ。谷あいの道は長い。カラマツが黄金色だ。宿に着いたのは3時40分。山の斜面の上の方に明るさが残っていた。

宿では佐久名物のコイの洗い、甘煮に舌鼓。佐久は今回のリーダー、小澤さんの生まれ故郷。「小澤、美味しいものを食べて育ったんだなあ」と皆に冷やかされ、酒も飲むほどに盛り上がった。

翌16日は午前8時すぎに出発。内山峠の駐車場は、すでに先客の車でいっぱいだ。

きょうも晴天。息が白い。山を覆う霧氷が美しい。「わっ、きれい」を連発。高度を上げると北アルプスが見えてきた。穂高から鹿島槍、白馬のつながりが一望できた。

トモ岩の展望台で記念撮影し、最高峰の行塚山(1422メートル)へは11時に着いた。



参加者

大浦陽子、小澤けい子(L)、梶田義弘、金子有美子、川島辰夫、鈴木さと子、諏訪吉春、高橋琢子、高橋正彦(SL)、三木雄三、柳下忠義、山崎完治、吉永英明、吉野聰、渡邊信一(敬称略)

全国支部懇談会（埼玉県秩父市）に参加しました

谷内剛

10月18・19日の2日間にわたり埼玉県秩父市で行われた平成26年度全国支部懇談会（埼玉支部主管、会場「ナチュラルファームシティ農園ホテル」）に千葉支部より諏訪支部長をはじめとして10名が参加しました。

初日は講演会と懇親会が行われ、講演会は埼玉県山岳救助隊の飯田副隊長による「埼玉県の山岳遭難事例と安全対策」、秩父まるとジオパーク推進協議会の吉田氏による「日本地質学発祥の地・秩父からの報告」の二つの講演会が行われました。特に飯田副隊長の講演の中で日々の遭難活動で思うこととして挙げられた8つの項目が興味深かったので記します。

- (1) 行方不明となる登山者は登山届が未提出で、迅速な救助捜索活動に支障あり。
- (2) 山岳会パーティー、多人数パーティーでもセルフレスキューが実施できない。
- (3) 山岳会パーティーでも他人任せの登山をしない。（地図が読めない、計画を知らないメンバー）
- (4) 山を知らない街ランナーは、トレイルランで山岳地を走ってはいけない。
- (5) 救助を要請しておいて、逃げないでほしい。

参加者 10 名

諏訪吉春、三木雄三、坂上光恵、小澤けい子、山崎完治、湯下正子、柳下忠義、高橋琢子、石岡伸介、谷内剛（順不同、敬称略）



- (6) ツアー登山は現在も無責任な業者やガイドがいるので十分注意。
- (7) 山ガール、山ボーイの遭難多発、山岳会先輩は勧誘し勉強させるべし。
- (8) 話しながら、地図を見ながら、〇〇しながら…という登山をしない。

夕方の懇親会では地元ボランティアのフォルクローレや秩父屋台囃子の演奏の中、普段会う機会の少ない他支部の参加者と秩父の郷土料理と酒で歓談しました。

二日目は両神山、武甲山、羊山公園周辺ハイクの3つのコースに分かれ、それぞれ散策と山行に参加しました。特に両神山登山コースに参加した「台湾遠征組」は先週の疲れも見せない健脚ぶりを発揮、秋晴れの空の下、事故もなく秩父の秋を堪能し帰路につきました。

「富士」写真展を訪問

6月の公開シンポジウム「房総の山の魅力と富士山を語る集い」の余韻の残る8月24日（土）、千葉市文化センターで開かれた全日本富士写真連盟千葉支部（熊谷利和支部長）の写真展「富士に魅せられて」に足を運んだ。



会場には会員14名の力作47点が勢揃い。熊谷さんは「富士山は天気が良ければ写せるものでもない。気に入った場所に4～5日通ってようやく撮れることもある。忍耐が必要だ」と苦労話を語った。作品の富士山はそれぞれに表情が異なり、想像を超えた色彩の中に溶け込んでいた。見事なシャッターチャンスは「会員の不断努力と先生を招いての講習会の賜物」とは、同連盟会長の竹内義明さんの弁。

連盟では、『社会貢献』として撮影場所での清掃はもとより、2年後には富士山を美しく撮るための場所やアクセスなどを記載した冊子を発行する予定という。入会・問合せは熊谷支部長（047-444-3208）まで。

（高橋琢子）

後藤三男油絵展

83歳を迎えた会員、後藤三男さんの油絵展が今年も9月18～23日まで、千葉市中央区の画廊ジュライで開かれた。

メインはネパール西部にあるジョムソン近郊の村を描いた「マルファの村」。F50号の大作。作品に近づいてよく見ると、画面の下にはヤクが荷物を運んでいる様子も描かれ、襟元のような手前の山の斜面の奥に、美しいヒマラヤ壁（ひだ）を見せて白く輝いているのがダウラギリ。

この大作の左隣は「涸沢の秋」、右隣に後藤さんが常に足を運んでいる「安曇野」がわきを固める。今回は詩情豊かな安曇野の四季、自然の造形に富んだ房総など約30点が展示された。

後藤さんは「50年、60年と絵筆を握っていると、絵の具がいう事を聞いてくれるんです。来年



はゴーギョピークを描きたい」と、ますますお元気な様子。

エベレストやローツェ、アマダブラムが展望できるホテル・エベレスト・ビューには、後藤さんの作品が飾られた、という。

（三木雄三）

登山のABC (連載)

高橋正彦

第2話 地図の読み方⇒目的地に行くには

地図は見るのではなく、読むと言います。理由は山の地形や尾根、谷、崖、森林の種類などを読み取れるからです。

- ① 2万5千分の1の地図の1kmは4cmです。②地図上の上は真北を指しております。③磁石の針の北は真北を指しているのではなく、磁北（磁石の北は北極点よりロシア側に寄っている）を指しております。④真北と磁北の差を編差と言います。日本では沖縄で 5° 、北海道で 10° あります。⑤等高線は10mごと（主曲線）と50mごと（計曲線）です。⑥日本の標高（水準点）は千代田区永田町の24mを基準とし山の高さが表示されております。

- 準備するもの→シルバ型コンパス（次ページ参照）

- 磁北線を地図に引く（その引き方、ここでは例として旧地形図2万5千分の1としました）。

購入した地図の欄外に磁針方位は西編約 $a^{\circ} bc'$ （例としてここでは $6^{\circ} 30'$ としました）と記入されております。

西編角度 $6^{\circ} 30'$ の「ズレ寸法」は4.22cmです。日本全国の西編角度詳細は次ページを参照下さい。それには旧地形図（縦370mm）、新地形図（縦420mm）の双方の西編角度の地図上の「ズレ寸法」を読み取ることが出来ます。

- 目的地に行く ワン・ツー・スリー

① ワン

現在地Aから進行線を目的地Bに向ける。

この時に針も矢印も何処を向いていてもかまわない。

② ツー

地図上の磁北線に矢印を合わせる。

針は何処を向いていてもかまわない。

③ スリー

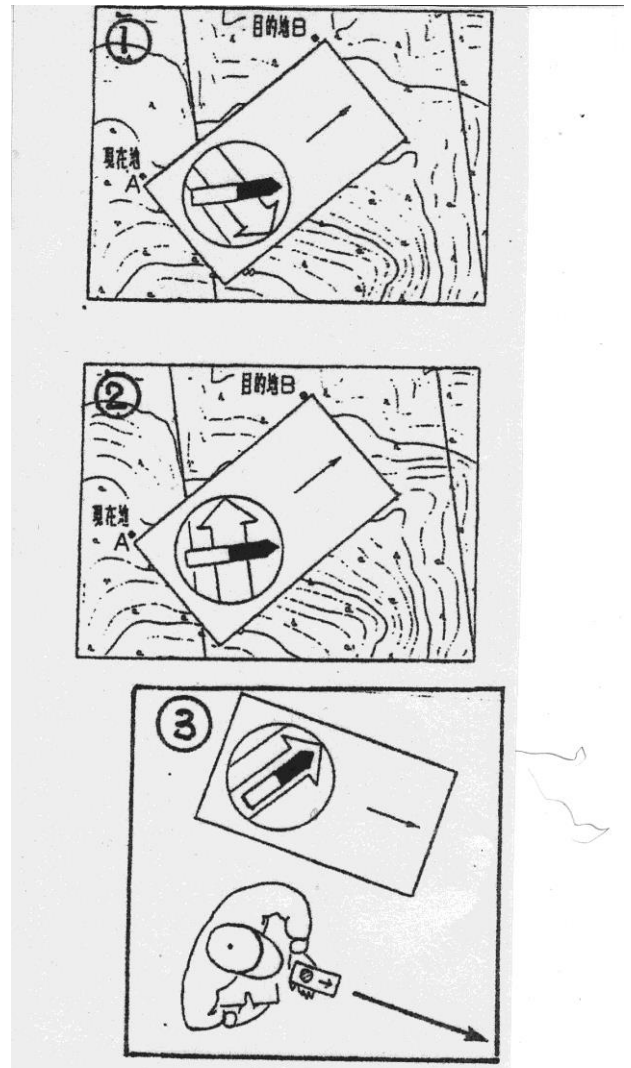
地図から磁石をはなし、針と矢印を重ねる。

このときの進行線の示す→印が進行方向です。

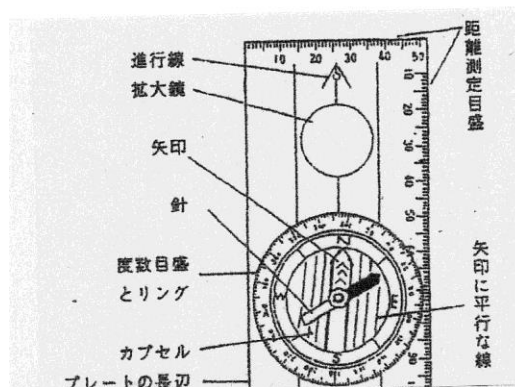
磁石で定めた目標に着いたら、次の目標を定め、前述のワン・ツー・スリーを繰り返して前進します。

実際の登山では雪原でもない限り、真っ直ぐな道はありませんから、右に曲がったら、次は左に曲がらないと進行方向からずれますから、勘を働かせ修正しながら進行方向に進みます。

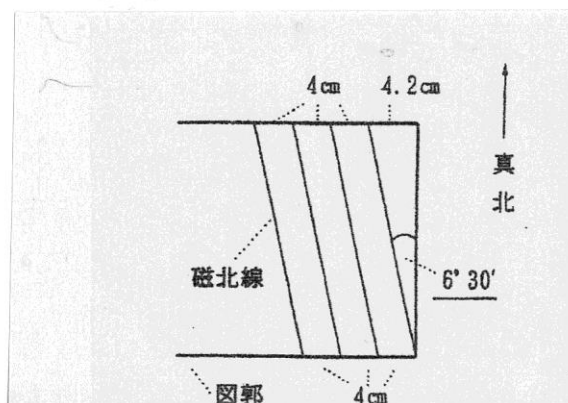
磁石は頼りになります。小生も以前、山スキー仲間と万座から志賀高原の横手山へ猛吹雪で視界も数メートル中、磁石だけを頼りに無事横手山に着くことができました。



シルバ型コンパス



磁北線



磁北線（ズレ寸法）の引き方早見表

西編角度	旧地形図 (縦370mm)	新地形図 (縦420mm)	西編角度	旧地形図 (縦370mm)	新地形図 (縦420mm)
5° 00′	32.4mm	36.7mm	7° 30′	48.7mm	55.3mm
5° 10′	33.5mm	38.0mm	7° 40′	49.8mm	56.5mm
5° 20′	34.5mm	39.2mm	7° 50′	50.9mm	57.8mm
5° 30′	35.6mm	40.4mm	8° 00′	52.0mm	59.0mm
5° 40′	36.7mm	41.7mm	8° 10′	53.1mm	60.3mm
5° 50′	37.8mm	42.9mm	8° 20′	54.2mm	61.5mm
6° 00′	38.9mm	44.1mm	8° 30′	55.3mm	62.8mm
6° 10′	40.0mm	45.4mm	8° 40′	56.4mm	64.0mm
6° 20′	41.1mm	46.6mm	8° 50′	57.5mm	65.3mm
6° 30′	42.2mm	47.9mm	9° 00′	58.6mm	66.5mm
6° 40′	43.2mm	49.1mm	9° 10′	59.7mm	67.8mm
6° 50′	44.3mm	50.3mm	9° 20′	60.8mm	69.0mm
7° 00′	45.4mm	51.6mm	9° 30′	61.9mm	70.3mm
7° 10′	46.5mm	52.8mm	9° 40′	63.0mm	71.5mm
7° 20′	47.6mm	54.1mm	9° 50′	64.1mm	72.8mm

<参考文献>

「1:25000 地形図」国土地理院、「地図利用マニュアル」国土地理院、「図式画法」日本地図センター、
「地図と地形図の読み方」山と溪谷社、「山行手帳」OMC清水耐治氏、「オリエンテーリング」埼玉教育委員会

投稿

第12次インドヒマラヤ登山隊 参加報告

鈴木美代

2013年の12月に入ったころ、JAC東海の鈴木常夫さんより、インドヒマラヤのお誘いをいただいた。21年ぶりのインドヒマラヤ。その気になった最大の理由はファテチャンタクール氏のお宅に弔問に伺うと聞いたことだった。

彼は93年メントーサの時のハイポーターで、その後（その前も）長くお世話になっていたが、昨年6月ルート工作中に落石で亡くなった。爽やかな好漢で、その後の隊員からファテチャンが美代さんのことを言っていたよ、などと言われるとうれしくなったものだった。（褒められたとは限らないが…）

インドに行ったところでもう彼には会えないが、こちらも余命どれだけあるかわからないので、行けるときに行っておこうと、話に乗った。メンバーは、隊長星一男、それに土屋まさ代、鈴木美代の三名である。

6月15日成田を発って日付が変わるころにデリー着。デリーではIMFや日本大使館に仁義を切って、18日陸路マナリへ。準備、ファテチャン宅訪問の後23日よりキャラバン開始。普通はバタルまでは車で一日行程だが、今回は雪で車が途中までしか入れず、チャタルの手前からバタルまで3日かけて歩いた。25日バタル着、一日ステイして27日BC入り。7月2日カルチャナラD氷河の5100m付近にC2を設営し、アタックに臨んだ。



未踏峰 ピアクシ頂上からの展望

ここで問題となったのは登るのはどの山だ？ということ。この辺りは国境地帯なのでインド政府は詳しい地図を公開しない。稜線だけ書き込んだような地図の上で、ここを登る、と許可を取るのだが、現地に行ってみると、で、それはどれなのよ？という話になる。

すったもんだの挙句、C2からひと峠こえたところに降りてくる尾根の、上部のピークがそれであろう、と、リエゾンとの意見が一致し、7月4日3時C2を出発した。この、登るべき山の決定、というのが今回の山の核心部であった。

あとは有能な現地スタッフがみんなやってくれた。FIXは張ってくれるは、ユマールのセットは点検してくれるは、手とり足とりで、なんだかな、という感じではあったが、きっと頼りなく見えたのだろう。出発から6時間、9時に頂上着。全員で写真を撮り、ヤシの実で乾杯した。上空一部雲はあるものの天気は上々で、周りの山々もよく見えた。

6090m、一応未踏峰ということで、ピアクシと命名した。ラホール語で“隠れた”という意味らしい。なかなか登る山が見えてこなかったことによる。もう一つ、恥ずかしがりの女性という意味もあるらしい。今回のメンバーの二人の女にはちょっとあてはまらないが…。

こんにちは

新入会員・会友のコーナー

自然へのあこがれ

奥戸晶子

初めまして。習志野市在住の奥戸昌子と申します。友達の高香さんに誘われた日本山岳会千葉支部サテライト四水会の「筑波山」に参加。とても楽しくて帰りのバスで「会友にしてください」と手を挙げました。皆さまの健脚さと豊富な知識、朗らかで会員同士の仲の良さに感激。満足度 200%でした。下りはロープウェイに甘んじた上、降りる場所を間違えるなど…大変お世話になりました。写真の真ん中にいるのが私です。



出身地は愛媛県宇和島市です。密柑や真珠養殖が有名です。海と山に囲まれて、丸ごと

自然の中で育ちました。段々畑を駆け回り、イタドリを食し、磯遊びにと毎日飽きずに遊んでいました。夕方 5 時のお帰りの放送にも気づかず、よく母親に叱られたものです。でも、その子ども時代の体験が今の自分の物差しをつくっているように感じています。だから山が好き、海が好き、地図が好き、旅が好きです。

学生時代に富士山七合目の山小屋でアルバイトをしていました。朝まで続く登山者たちの光の帯、まるで宇宙に頭を突っ込んだような静けさ、満天の星たち、見渡す限りの雲海、そしてバイトの最終日、一人で向かった山頂。寒さに震えながら見たご来光は忘れられない思い出です。

子育て時代にはガールスカウト活動にも 20 年楽しみました。今もその仲間たちとキャンプしたりしています。

自然との関わりは大人になってますます必要だと痛感しています。50 歳を過ぎて生活の幅は小さくなり、便利で楽ちんな生活に頼っていますが、自分の五感が鈍らないよう、自然と共に過ごし、両足でしっかり大地を蹴って歩きたいと思います。

日本山岳会千葉支部は会員・会友を募集しています。

問い合わせ先

諏訪吉春

三木雄三

第8回 千葉・栃木・茨城・群馬四支部合同懇談会を開催

本年度は、千葉支部が主催して2月7日(土)～8日(日)に館山で開催いたします。
四支部の交流および房総半島分水嶺踏査報告、房の大山の登山等を計画しています。
房総半島の南端、館山の日本一美しい夕日と海の幸をお楽しみに、ぜひ、会員・会友の皆様の多く
のご参加をお願いいたします。

(開催概要)

1. 期 日：2015年2月7日(土)～8日(日) 一泊二日

2. 場 所：ホテル ^{かわばた}「川端」千葉県館山市西川名855

TEL：0470-29-0341

3. 参加費：15,000円

4. 日 程：

*2月7日(土) 13:30 受付開始

14:40 開会

四支部活動報告

房総半島分水嶺踏査報告

18:30 懇親会

*2月8日(日) Aコース(登山)：房の大山(コースタイム3時間)

Bコース(観光)：館山ファミリーパーク見学

13:00 解散

5. 申し込み、問い合わせ先 谷内剛



チーバくん

千葉県許諾第A973-1号

平成27年度全国支部懇談会について

公益社団法人日本山岳会の平成27年度全国支部懇談会は四国支部の主催で「四国の山はなぜ美
しい」をテーマとして、「第3回小島島水祭」^{うすい}と併催で香川県で開催します。

1、期日：2015年4月11日(土)～12日(日)

2、会場：香川県高松市 喜代美山荘「花樹海」

3、参加費用：宿泊 19,000円 宿泊無し 10,000円

4、申し込み、問い合わせ 瀧由喜子四国支部総務委員長 (締切 1月末)

役員会の報告

8月報告 2014年8月26日(火) 市川アイリンク

出席者 小澤、小板橋、鈴木、諏訪、高橋(琢)、三木、谷内、山口、山崎、山本、結城、湯下、吉野 以上13名 (敬称略、五十音順)

1 報告事項

- ・山行・行事報告(日光・鳴虫山、ビールパーティー)
- ・学生部女子ムスタン登山隊募金協力 ・支部登山指導者講習会参加

2 検討事項

- ・支部山行実施要領の制定 ・山岳保険
- ・四支部合同懇談会の準備 ・郡界尾根山行 11月29日(土)、12月20日(土)

9月報告 2014年9月22日(火) 市川アイリンク

出席者 小澤、坂上、鈴木、諏訪、三木、谷内、山口、山本、湯下、吉野 以上10名

1 報告・連絡事項

- ・全国支部長及び事務局長会議(9月20～21日)報告
- ・山行報告(児童引率山行、日光切込湖・刈込湖)

2 行事予定等

- ・第2回海外山行(台湾・玉山)10月7～12日
- ・全国支部懇(埼玉支部主催)10月18～19日
- ・千葉支部山行 富山(県民ハイク)、荒船山、郡界尾根

3 検討事項

- ・四支部合同懇談会の準備

4 川島由夫会員の遭難に関する中間報告

10月報告 2014年10月28日(火) 市川アイリンク

出席者 小澤、小板橋、坂上、鈴木、諏訪、三木、安間、谷内、山口、山本、湯下、吉野 以上12名

1 報告・連絡事項

- ・台湾海外山行 ・全国支部懇 ・支部だより

2 行事予定等

- ・4月までの山行及び行事計画策定
県民ハイキング(富山)、荒船山、郡界尾根、自然観察会(軍荼利山)外

3 検討事項

- ・四支部合同懇談会準備の件
- ・会員・会友の増強について

房総の里山 九十九谷 (写真提供 茂原市 保川久夫氏)



お 知 ら せ

会員の消息

新入会友

河内 美穂（かわうち みほ）さん
川島 辰雄（かわしま たつお）さん

募集 自然観察会

軍荼利山植物群落と房総里歩き

県指定天然記念物の軍荼利山自然林をみて、早春の房総の田園風景の中を上総一宮まで歩きます。東浪見寺の階段以外はきついところはありません。

冬芽観察の好季です。お持ちの方はルーペをご持参ください。

また、地元の酒蔵(稲花酒造)に立ち寄り、日本酒造りの現場を見学する予定です。

期日 27年3月1日(日)

申し込み、問い合わせ先 鈴木美代

締め切り 27年2月21日(土)

原稿募集

山旅の思い出を原稿にして送って下さい。雪山や夏山での楽しかった話、苦しかった思い出、どのようなものでも結構です。1000文字程度、写真又はイラストを1~2枚付けてください。

1月31日(土)を締切としてお送りください。

また、写真、カットのみでもお送りください。紙面で活用します。

連絡先 吉野聡



ブルーポピー インドヒマラヤにて
(写真提供 鈴木美代さん)

川島会員の「遭難」に関する中間報告

川島由夫さん(会員番号 14434、平成 19 年 8 月入会)が 8 月 31 日に八千代市の自宅を出発し、9 月 1 日に秋田県の羽後朝日岳に入山したまま帰宅せず、秋田県警仙北署が 9 月 10 日、「朝日岳か、その周辺で遭難した可能性がある」と発表。共同通信社が記事を配信、千葉日報は 11 日付で「八千代の男性遭難か」と報道した。

秋田県警によると、8 月 31 日、朝日岳に行くと言って自宅を出発。同日、山仲間に「雨が降っているので、今日の入山はやめておく」と電話があったが、その後に連絡が取れていない。県警が搜索したところ、仙北市田沢湖生保内の林道で車が発見された。

この間、ヘリ(県警・防災)による搜索、県警や行政による地上からの搜索、情報提供を呼びかけた看板の設置、入山者からの情報収集を行っている。

また日本山岳会秋田支部が滝や山頂までの稜線、迷いやすい沢を重点に現地調査と搜索活動、支部独自の「情報呼びかける」看板の設置、登山者からの情報収集などの対応にあたっている。

山 行 の 予 定

(12月以降、支部行事等含)

行 き 先	日 程	申 込 先	締 切	備 考
年次晩餐会	12/6 (土)	日本山岳会	申込終了	
第2回郡界尾根	12/20(土)	山口文嗣	12/12(金)	忘年山行 *
大坪山と東京湾観 音初詣	1/10(土)	山口文嗣	1/5(月)	新年山行
手賀沼散策	1/17 (土)	湯下正子	1/10(土)	
第3回郡界尾根	1/24(土)	山口文嗣	1/15 (木)	
四支部合同 懇談会 (館山市)	2/7(土) 8(日)	谷内剛	12/31 (水)	ホテル川端 房の大山 12 参 照
高川山	2/21 (土)	小澤けい子	2/8 (日)	晴香園と 合同山行
軍荼利山	3/1 (日)	鈴木美代	2/21 (土)	自然観察会 14 参 照
冬山入門 黒斑山(高峰高原)	3/7 (土) 8 (日) 9 (月)	坂上光恵	2/28 (土)	1 泊でも可
第4回郡界尾根	3/15 (土)	山口文嗣	3/1 (日)	
全国支部懇談会 (香川県高松市)	4/11 (土) 12 (日)	四国支部へ直接	1/31 (土)	12 参 照
栃木大平山	4/18 (土)	柳川しげよ	4/11(土)	花見登山

忘年山行 * 終了後有志により四支部合同懇親会の下見を行います。
宿に泊まり翌日房の大山に登ります。申し込みの際、下見にも参加するかどうかお知らせください。

編集後記

2 回目の台湾遠征、メンバー全員が玉山山頂に立った。長い道のりであったが、岩尾隊長のもと全隊員が結束して登頂を成し遂げた。

登山道であった台湾の人たち、我々が日本人とわかると「コンニチワ」「ガンバッテ」と声をかけてくれる。嬉しくなり、元気が湧いてきた。

今回もまた、台湾山岳協会の方々に大変お世話になった。この場を借り改めてお礼申し上げます。それにしても台湾の山は大きかった。協会の方から伺った「台湾には 3000 メートル以上の山が 258 あります」という話がまだ耳に残っている。

(S. Y 生)

台湾遠征ハイライト



登山基地「排雲山荘」

長い登山道を歩き標高 3402 メートルに建つ
「排雲山荘」に到着
森林限界はこの上、周囲はニイタカトドマツを
中心とする針葉樹や笹が密生



台湾中央山脈横断

台湾の背骨にあたる中央山脈を越えて
東海岸の花蓮市へ向う
3000 メートルを超す峠の展望台で
記念写真におさまる女性隊員
背後にうっすらと見えるのは南湖大山
(3742 メートル)

針葉樹林の中を登山基地に向かう隊員

登山口の搭搭加から約 8 キロメートル、山の急斜面
を縫うように造られた登山道、見下ろすと千尋の谷、途
中道が途切れ、80 以上の橋で繋がれる



東埔温泉から改めて玉山を望む

下山後祝杯を挙げた翌朝、重い瞼をあけると
目の前に玉山、その雄大さに再び感動
かつて新高山と呼ばれていた頃、東埔から 4 日間
かけて登ったそうだ

